

審査の結果の要旨

氏 名 周 詳

本論文は、上海市の石庫門里弄界隈における、歴史的環境保存と商業観光エリアとしての活性化の衝突という現象を対象として、コミュニティの保全と刷新のあり方について研究したものである。地域住民の追い出しをせずに、歴史的環境保存と地域の活性化を両立させ、石庫門里弄界隈の活性化が実現できる方法を明らかにした。

第1章では、上海の都市開発の歴史を追いながら、特に石庫門里弄界隈をめぐる歴史的環境保存と、地域活性化に関する既往研究を整理した。多様な関係主体が、多様な都市開発に関与し、弱い立場への配慮を前提としながら、権限を調整することが重要であることを指摘した。

第2章は、歴史的な側面からの分析であるが、上海の開港以降の、石庫門里弄界隈の変容を詳細に明らかにした。その過程において、伝統的な中国人が西洋の住宅に住むというスタイルが現れ、進化していく。

第3章では、市場的な側面から分析していく。よって1930年代と2010年代、すなわち上海が国際都市からグローバルなメトロポリスへと変貌している状況を対象とする。三つの経済レベルの石庫門里弄界隈を抽出し、社会的・空間的変容の相違を明らかにした。1930年代の上海では、経済的な統合がなく、差が激しかったが、2010年代になると社会的な統合を失っている。ゆえに上海が、健全なグローバルなメトロポリスとなるためには、経済的にも社会的にも統合しなければならない。石庫門里弄界隈での日常生活は、社会的な構造と伝統的な習慣に依拠しており、各界隈を、多極的な拠点として位置付け、広域的なネットワークを形成する必要がある。

第4章では、地理的な分析を加えている。アメリカの近年の動きを抑えたいうえで、上海での1990年代以降の動きについて、都市再生への反対運動として捉

えた。界限スケールのデザイン手法として5つに類型化した。すなわち **mediation, transposition, preservation, reposition, juxtaposition** である。また、消費スタイルもしくは消費レベルが、それぞれの界限において、歴史的環境保存と地域活性化の前後で、どのように変わったのかを調査した。その結果、住と商、新と旧の住民、保存と開発のバランスをそれぞれ保つべきことを指摘した。

第5章は、空間的な変化だけでは捉えきれないもの、すなわち、政治的、制度的な側面からの分析である。所有権については歴史的な背景がある。歴史的環境保存と都市再生については、それぞれが制度を構築しており、両者の統合がとれていない。そこで、石庫門里弄界限の可能性として、**heritage community** すなわち、歴史的環境保存としての側面と主体性をもった地域の単位としての可能性を両方とも包含した概念を実現できるものとしての価値があることを論じた。

第6章は、日常的な生活空間を扱う。対象事例は、**Hongkou creek area** である。コミュニティに関する形成や変容過程をふまえて、歴史的環境保存や地区の再生など、**Hongkou creek area** で生じていたことの関係の点からは、住民が隣接した地域における断絶を感じていることを明らかにした。また、日常的な生活空間については、コミュニティが主体的な能力を獲得し維持できる社会的な支援は有効であると論じている。また、拙速な近代化という文脈に反して、公共空間を維持することが重要である。

第7章は、結論である。上海の石庫門里弄界限を対象として、歴史的環境保存と商業観光化による活性化においては、地域住民のコミュニティを尊重し、界限の内部での地区の断絶を防ぐことで、コミュニティの保全と刷新が可能であり、それが地域の活性化につながることを示した。

グローバル化の急激な変容の中で、石庫門里弄界限という **heritage community** に着目し、上記の方法論を示したことには重要な意義がある。

よって本論文は博士（工学）の学位請求論文として合格と認められる。